

平成29年度 経営支援事例報告書

【テ ー マ】

支援区分	経営改善
支援テーマ	家族、団体客を狙ったファミリールーム新設による新規顧客獲得

【企業の概要】

名 称	大山バックパッカーズ	創 業 年	2014年
代 表 者	斉藤 みゆき	業 種	宿泊業
商 工 会	伯耆町商工会	(取扱い商品等)	簡易宿泊

【支援の概要】

1. 相談の経緯

同社は昭和50年代に建てられた中古ペンション物件を購入、ゲストハウスタイプの宿泊業を始めた。ゲストハウスは通常1～2名の個人旅行客利用が多く、2～3人部屋を主体とした営業をスタート。しかし実際には小さな子供連れの家族客など1室4名前後の宿泊希望が多く、2室に分かれて宿泊して頂くなど対応に苦慮、4名一部屋を希望される場合には予約をお断りする事があった。また、繁忙期と閑散期の差が大きく、売上の伸び悩みについて相談があった。

2. 経営課題

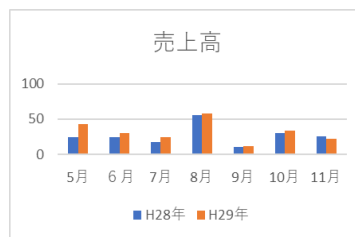
- ①4名1部屋での宿泊を希望されるお客様対応を可能とする施設面の改善
- ②平日利用客（インバウンド）の予約が低調であり、インバウンドへのPR強化により稼働率の高い週末・連休以外の閑散期稼働率の向上、平準化
- ③外国人旅行客は海外の宿泊情報サイトを経由して宿泊予約をされる場合がほとんどであるため、サイト閲覧遮断の危険性を回避する対策の必要性

3. 支援内容

- 巡回ヒアリングにより創業から現在までの聞き取りで現状把握を実施。
- ヒアリング結果に基づき現状分析（環境分析・顧客分析・競合分析・自社経営資源の実地確認）を実施。
- SWOT結果をもとに平日のインバウンドと子供連れ団体客をターゲットにした事業計画を策定。
- 小規模事業者持続化補助金活用に向けた申請支援（未使用の部屋を4人部屋への改修修理）、採択後の事業遂行支援（ショップカードとホームページの英語・中国版作成、インバウンド向け情報発信を強化）

4. 支援の成果

昨年までお断りしていた4名1室宿泊希望のお客様の受入れが可能となり、国内外の子供連れ団体客が増加。ファミリールームへの宿泊客が5月～11月までの半年間で98名となった。グリーンシーズン売上が前年比10%増、平準化が実現した。



5. 成果物等の写真

ファミリールーム（畳部分）



6. 事業者の声

小規模持続化補助金活用により、インバウンド対応の英語と中国語によるリーフレットや自社ホームページの作成、子供連れ団体客用の畳とベッドの4人部屋改修が実現出来た事で、これまでお断りしていた団体客の受入れが可能となり売上向上に大きく寄与した。また、事業計画を作成するにあたり商工会や専門家の支援、アドバイスで自社の事業課題が明確になり、今後の方向性が定まった。

【報告者】

センター	西部商工会産業支援センター	担当者名	田仲 玲子
------	---------------	------	-------